ワクワク！
しながわ情報紙
第73号
ホットな品川区の情報や話題をお届けします。
発行日：平成26年8月1日（金曜）
発行者：若林ひろき 品川区議会議員
ブログ http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/
ツイッター https://twitter.com/wakabayashi_h

もくじ

1P
・電気ボートで目黒川・運河を遊覧
・自転車交通ルール
・としょかんスタンプラリー
・私の本棚
「ぼくは数式で宇宙の美しさを伝えたい」

夏は区民まつり！
7月中旬～8月上旬の期間、地域毎に小学校の校庭等で開催されています。主に、地域の子どもたちやその親、祖父母の方たち、近隣の方など、多くの人でにぎわいます。食べ物や飲み物、かき氷などの模擬店、各種ゲームのテントが立ち並び、行列ができるテントも続出。健康づくり推進委員さんが健康測定を行ったり、警察・消防・自衛隊の皆さんの展示は、普段目にしないものを見ることができます。また、会場ごとに趣向をこらし、盆踊りやウォータースライダーで盛り上がっている会場もありました。区民まつりの最後は、8月3日（日）午前11時～午後3時まで、五反田ふれあい水辺広場（目黒川沿い）です！

電気ボートで目黒川と運河を遊覧

今年の建設委員会の調査テーマの一つが、「水辺を活用したまちづくり」。7月22日にまずは区内の河川・運河の様子を観察するため、区所有の船に乗り込み、五反田ふれあい水辺広場～天王洲桟橋のコースを遊覧しました。この船は、五反田地域の賑わいづくりを目的に設立されたNPO目黒川五反田協議会から区へ寄贈されたもので、世界的にも希少な電気ボート2艘とモーターボート1艘を区は所有しています。

五反田ふれあい水辺広場発着所

水辺広場でボートに乗船、この日の目黒川の色は鮮やかな緑一 山本橋、小関橋、森永橋と河口に向け進行していきますが、満潮に近づいているため屋根が橋桁ぎりぎりを通過していきます。でもご安心、満潮になっても電気ボート程度の高さではぶつかることはないそうです。運河に出ると水面の様子は“海”っぽくなります。不思議ですね。浮桟橋が整備されている海上公園を右手に、クジラの絵が描かれている水門を左手に見ながら直進すると、首都高速羽田線とモノレールが頭上を走り抜けていきます。ちなみに、浮桟橋は都港湾局の許認可です。出発点の水辺広場にも浮桟橋が欲しかったのですが、ここは、都河川局の所管で、目黒川は氾濫河川の位置づけで川に物体を固定することは許されていません。さて、モノレール下を左に折れ品川埠頭橋を抜けるとクリスタルヨットクラブが左手に見えてきます。以前は右手にありましたが、今はマンション建設予定地となっていました。天王洲にはボードウォークが整備されていますが、第一ホテルが日陰を作っていてベンチに腰掛けくつろぐ人を多く見かけました。ここを左折し天王洲大橋の手前で、ボラらしき魚がジャンプし、目の前を飛び越えていきます！ちょっとしたハプニングでした。大橋を抜けると水辺を意識したまちがきれいに整備されているところです。ティー・ワイ・ハーバーブルワリーは有名ですが、この周辺では昨年、小規模ではありますが花火大会が開催されました。今年も予定されているそうです。運河を横切ると、区が設置した天王洲桟橋にゴールです。

天王洲桟橋と
ティー・ワイ・ハーバーブルワリー

この地域は、品川駅から近い位置にありますが、今年6月「品川駅南地域まちづくりビジョン」が区から発表されました。品川浦運河をエリアに抱えていることから、水辺を活かした新しい機能も視野に入っています。せっかく船を所有しているのですから、区内の他の水辺や港区、大田区など水でつながっているところにも広がるようなまちづくりを期待したいと思います。

自転車の安全利用を！交通ルールを守りましょう！！▶意外と知らない自転車のルール！！●自転車が通行できる路側帯は道路の左側のみ ●自転車は車道を走行するのが原則 ●歩道を走行する時は歩行者優先、車道寄りを徐行運転 ●自転車でも飲酒運転は厳禁 ●二人乗り・並列走行は禁止 ●夜間はライトを点灯

としょかんスタンプラリーを開催▶区立図書館で、夏休みの間「としょかんスタンプラリー」が開催され、賞状と記念品（先着３００名）がもらえます。▶【期間】８月３１日（日）まで ▶【場所】品川区立図書館（１０館）▶【対象】小学生

私の本棚
「ぼくは数式で宇宙の美しさを伝えたい」（クリスティン・バーネット／角川書店）その３

「自閉症」と二歳で診断されたアメリカ人の男の子・ジェイクは、〝驚くべき才能を秘めた子〟母の気付きと子育てによって九歳で大学に入学してしまいます。その格闘記を母自身が綴っています。

ジェイクはセラピーを受けることになりますが、その結果レポートはどんどん厳しい内容に。また、家族と話さず、ハグもせず、甘えてくることもない、見ることすらしない。母は、疲れ、恐れ、絶望感…子どもたちを寝かしつけるとシャワーを浴びながら、ただひたすら泣く。ある時、ある物質を除去した食事が自閉症に良いと聞き、与えてみます。別の子は即座に言葉を発するという奇跡的な効果が顕れますが、ジェイクの変化は全くない。わが子の声を再び聞くことは、全ての自閉症児の親の夢ですが、ジェイクはしゃべれるようにならないと言われたのは本当かもしれない…。

さて、夏のある日、よその子どもたちが庭で水を飛ばし合いはしゃいでいる姿に触れ、一年半、訓練やセラピー、プログラムづけの生活の中で、このような子ども時代の思い出や経験をさせていなかったことにハッと気付かされます。昼はハードなセラピーをこなし、夜には子どもらしい楽しみの時間をつくる―新たな取り組みに毎日挑戦する中で、遊びの時間がないと子どもの機嫌は悪くなり、勉強や訓練の効率も悪くなることを発見します。そして、半年、ついに母の願いがかなう日が訪れます。ジェイクを寝かしつけていると、ジェイクが腕を伸ばしハグを返してくれた！息子が初めて示した母への愛情のサイン、そして、18か月ぶりにおやすみの言葉を発した！

（つづく）